

大学ファンドを通じた 世界最高水準の研究大学の実現に向けて ～国際卓越研究大学の第2期公募審査の状況について～

国際卓越研究大学の

将来像（イメージ）

大学ファンドによる支援を通じて、
日本の大学が目指す将来の姿

- 世界最高水準の研究環境（待遇、研究設備、サポート体制等）で、世界トップクラスの人材が結集
- 英語と日本語を共通言語として、海外トップ大学と日常的に連携している世界標準の教育研究環境
- 授業料が免除され、生活費の支給も受け、思う存分、研究しながら、博士号を取得可能



国際卓越研究大学の認定等に関する有識者会議（アドバイザリーボード）の審査状況について

1. 審査の経過

申請のあった8大学について、書面審査や国内外のレビューの意見に加えて、大学側との丁寧な対話を実施する方針のもと、**8大学に**対して**面接審査**を実施。さらに研究現場の状況等を把握するため、**6大学の現地視察**を実施。

これらの審査も踏まえ、総括審議を行った結果、今回の公募における国際卓越研究大学の認定候補を選定。

※ 6月以降、これまでに**計15回の会合を開催**



アドバイザリーボード第1回会合



2. 審査結果について

- 東京科学大学については、**令和8年4月から**体制強化計画を**開始**。計画初年度内及び3年度内に、アドバイザリーボードで進捗状況を厳格にモニタリングする。
- 京都大学については、**最長で1年間**、体制強化計画案の**磨き上げ**を実施した上で計画を開始する。
- 東京大学については、**最長で1年間**、**審査を継続**し、その上で採否を判断する。

大学ファンドの支援対象となる国際卓越研究大学の公募・選定について

1. 公募・選定のポイント

判断

これまでの実績や蓄積のみで判断するのではなく、世界最高水準の研究大学の実現に向けた「**変革**」への意思(ビジョン)と**コミットメントの提示**に基づき実施。

大学数

制度の趣旨を踏まえ、認定及び認可される大学は無制限に拡大するものではなく、**数校程度に限定**。また、大学ファンドの運用状況等を勘案し、段階的に認定及び認可を行う。

要件

制度の趣旨や大学の負担も考慮し、大学認定と計画認可の審査プロセスを一体的に実施。

1. 国際的に卓越した研究成果を創出できる研究力
2. 実効性高く、意欲的な事業・財務戦略
3. 自律と責任のあるガバナンス体制



審査体制

総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制（アドバイザリーボード）を構築。

段階的審査

審査においては、**研究現場の状況把握や大学側との丁寧な対話を実施**（書面や面接による審査だけでなく、現地視察、体制強化計画の磨き上げなど多様な手段により審査を実施）。

2. 第2期公募のスケジュール

令和6年12月	公募開始
令和7年 5月	公募締切（認定基準確認書／体制強化計画（第一次案）等提出）
令和7年 6月～	段階的審査（夏～冬頃にかけて段階的に絞り込み。大学側との丁寧な対話。） 国際卓越研究大学 認定 ／ 体制強化計画 認可 助成開始（令和7年度中を予定）
令和8年 4月～	体制強化計画 開始



※アドバイザリーボードにおける審査の結果、体制強化計画の磨き上げ、又は継続審査となった大学については、この限りでない。

国際卓越研究大学への申請の概要について



筑波大学

大学改革を先導してきた筑波大学は、学理を創成する未来構想大学へと自らを変革する。筑波研究学園都市の産学官の研究機関とともに研究教育共創体となり、国際性と学際性を両輪に、組織間、学問分野間の壁を越えて生み出される新たな価値をスーパー・シティ型国家戦略特区で実装し、固定化された社会の変革を牽引する。



名古屋大学

全教員のPI（Principal Investigator）化とPIの自由闊達なグループ・クラスター形成への戦略的支援等により、大学を取り巻くあらゆる壁を取り払う。研究分野・組織を超えてPI同士を繋げ、視野が広い学生を世界と繋げ、教員・博士人材を社会と繋げ、知の価値化エコシステムを確立、世界最高水準のインパクトを創出し続ける新しい大学となる。



東京大学

東京大学は、変革を阻んできた旧態依然の構造を打破し、国際競争力と自律成長力を持つ大学に自己変革する。10年で世界トップ10研究大学となり、学術と社会イノベーションを牽引する。文化・経済のグローバル交差点であるアジア・東京に位置する開かれた大学として、分断を架橋し、新たな価値創造で世界に貢献する。



京都大学

新たな研究組織体制（デパートメント制）の導入を核として「研究改革」「教育改革」「成長戦略」「経営改革」を戦略的に実行し、大学を変革する。創立以来堅持してきた自由の学風のもとで、社会を変革する価値とグローバルに活躍する高度人材を生み出し続け、世界から多様な研究人材が集う国際的な知の拠点を目指す。



大阪大学

最先端の研究を基軸に、総合知を創出する体制強化を行い、若手研究者の独立性を尊重し、創発的研究を推進する。さらに産学連携と社学連携を両輪として研究成果を社会実装し、産業・社会変革を先導する。多文化共生の時代にも地域と共に歩み、世界に先駆け、「いのち」と「くらし」を守る未来社会実現に貢献する大学となる。



九州大学

「イノベーションとビジネス創造の中核となる」「卓越したフロンティア科学を総合知で創出する」「強靭かつ柔軟なガバナンスを実現する」そのために、「5つの壁-学術分野・距離・組織・職位・博士像-」を越えて総合知で社会・学術インパクトを創出し、世界と伍する「アジアから未来変革を牽引する大学」へ飛躍する。



WASEDA University
早稲田大学

早稲田大学

建学の精神のもと、世界人類に貢献する社会的インパクトの高い研究を推進する国際競争力とグローバル・インターフェイスを持つ研究大学を目指す。その実現のため迅速な意思決定を行うガバナンス体制と強固な財務戦略を整えた。これらにより、新設したGlobal Research Centerを司令塔として文理融合と産学連携の先端研究を推進する。

九州大学

国際卓越研究大学の認定等に関する審査体制について

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

有識者議員等のうち、数名が参加

文部科学省 科学技術・学術審議会

〔国際卓越研究大学法に基づき、国際卓越研究大学の認定、体制強化計画の認可について意見〕

大学研究力強化部会の委員等のうち、数名が参加

国際卓越研究大学 アドバイザリーボード



内閣府

連携

審査事務局（文部科学省）

①国際的に卓越した研究成果
を創出できる研究力

②実効性高く、意欲的な
事業・財務戦略

③自律と責任のある
ガバナンス体制

情報提供

NISTEP

国内外のレビュー

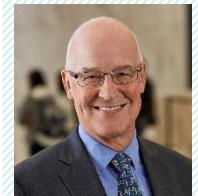


(参考) 国際卓越研究大学法に基づく基本方針（抜粋）

3 総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会への意見聴取

科学技術・イノベーション政策における国際卓越研究大学制度の重要性に鑑み、文部科学大臣は、国際卓越研究大学の認定に当たり、法第4条第4項の規定に基づき、あらかじめ、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会の意見を聴かなければならないこととされている。その際、総合科学技術・イノベーション会議及び科学技術・学術審議会が適切に情報共有等の連携を行うことができる体制を構築とともに、アカデミアの特性も踏まえつつ、国際的な視野から、高度かつ専門的な見識を踏まえられるよう、外国人有識者も加えた適切な体制を構築することとする。

アドバイザリーボードの構成員について



ニューヨーク大学 名誉学長、元ニューヨーク大学 学長、元オックスフォード大学 学長、元イエール大学 プロボスト
President Emeritus, New York University.
Former President, New York University / Former Vice-Chancellor,
University of Oxford / Former Provost, Yale University.

アンドリュー・D・ハミルトン/Andrew D. Hamilton



シンガポール科学技術研究庁長官他、元シンガポール国立大学 学長
Permanent Secretary (National Research and Development) / Permanent Secretary (Public Sector Science and Technology Policy and Plans Office), Prime Minister's Office / Chairman, Agency for Science , Technology and Research / Chairman, MOH Office for Healthcare Transformation / Former President, National University of Singapore

タン・チョー・チュアン/Tan Chorh Chuan



内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員
(一社) 産業競争力懇談会 エグゼクティブアドバイザー
Executive Member , Council for Science, Technology and Innovation
Executive Adviser , Council on Competitiveness-Nippon

梶原 ゆみ子/Kajiwara Yumiko



内閣府本府参与（科学技術・イノベーション担当）
Special Advisor Science, Technology and Innovation Cabinet Office,
Government of Japan

上山 隆大/Ueyama Takahiro



フューチャー株式会社 代表取締役会長兼社長 グループCEO
CEO, Future Co.

金丸 恒文/Kanemaru Yasufumi



ウィルトン・ストラテジー社CEO
元UCバークレー 副学長、元シンガポール国立大学 副学長
CEO, Wilton Strategy Inc.
Former Vice President, University of California, Berkeley / Former Vice President, National University of Singapore

ジョン・ウィルトン/John Wilton



大学共同利用機関法人自然科学研究機構 機構長
国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長
President, National Institutes of Natural Sciences
Director , Center for Research and Development Strategy

川合 真紀/Kawai Maki



NTT Research, Inc. Physics & Informatics Laboratories (PHI Lab)所長、スタンフォード大学名誉教授、国立情報学研究所名誉教授
Director of Physics & Informatics Laboratories, NTT Research / Professor (emeritus), Stanford University / Professor (emeritus), National Institute of Informatics

山本 喜久/Yamamoto Yoshihisa



東北大学 総長特別顧問
経済産業省 特別顧問（科学技術担当）
Executive Adviser, Tohoku University
Special Advisor on Science and Technology to the Ministry of Economy, Trade and Industry

大野 英男/Ohno Hideo



福島国際研究教育機構 理事長、元金沢大学 学長
President, Fukushima Institute for Research, Education and Innovation
Former President, Kanazawa University

山崎 光悦/Yamazaki Koetsu



NTT株式会社 相談役
(一社)日本経済団体連合会・デジタルエコノミー推進委員会委員長
Executive Advisor, Nippon Telegraph and Telephone Corporation (NTT)
Chair of the Committee on Digital Economy, Japan Business Federation (Keidanren)

篠原 弘道/Shinohara Hiromichi

大学ファンドに関するスケジュール

